

鳴潮

真っ白な犬は人間に近い、次の世には人間に生まれ変わってくるといった俗説が昔、あったんだそうです。その時分、八幡様の境内に1匹の白犬がいましたねー▼新しい年、2018年、成年。平成も数えて節目の30年になる。平成とは、どんな時代だったのか、振り返る機会である。好都合なことに明治維新から、ちょうど150年。日本の近代化と、いった大きな歴史の流れの中で今をとらえ、次の時代を構想したい▼さて、落語家古今亭志ん朝さんの「元犬」は続く。白犬シロは人間になりたくて八幡様に日参、はだし参り。といっても元から靴は履かないが、熱心な願いが届いて、晴れて好男子にー▼ベートーベンの「第九」が鳴門に響いて100年。近代は膨張の時代だった。戦後は成長と言い換えて、大きくなることばかりを追い掛けた。しかし、明石海峡大橋開通からの20年。成長一辺倒では、この国は幸福になれない。疑問は確信へと変わってきた▼シロはご隠居の世話役の仕事にありつくが、電柱を見ては片足を上げたり、茶わんに口を突っ込んで飯を食べたりと習性が抜けない。人間もなかなか面倒だ。やっていくのも大変大変ー▼輪廻転生、犬も人も。時代は巡る、国も世界も、私たちそれぞれの人生も。せつかく人間に生まれたのだものまた1年、先に進むより道はない。

2018・1・1

赤線134文字

▼は段落の始まりの印

100文字要約：近代は膨張の時代だった。戦後は成長と言い換えて大きくなることばかりを追いかけたが、成長一辺倒ではこの国は幸福にはなれない。時代は巡る、国も世界も私たちそれぞれの人生も。また1年、先に進むより道はない。

解説①「平成も数えて節目の30年になる。平成とは、どんな時代だったのか、振り返る機会である。好都合なことに明治維新から、ちょうど150年。日本の近代化とといった大きな歴史の流れの中で今をとらえ、次の時代を構想したい」は「近代は膨張の時代だった。戦後は成長と言い換えて、大きくなることばかりを追い掛けた。しかし、明石海峡大橋開通からの20年。成長一辺倒では、この国は幸福になれない」と考えを述べる理由です。

②「疑問は確信へと変わってきた」は「しかし、明石海峡大橋開通からの20年。成長一辺倒では、この国は幸福になれない」を補足しています。

*落語「元犬」の願いを追い求める白犬に、経済成長を追い求める人間を重ねて話を進めています。「元犬」の内容を除いていくと、筆者の主張が残ります。